

中野区

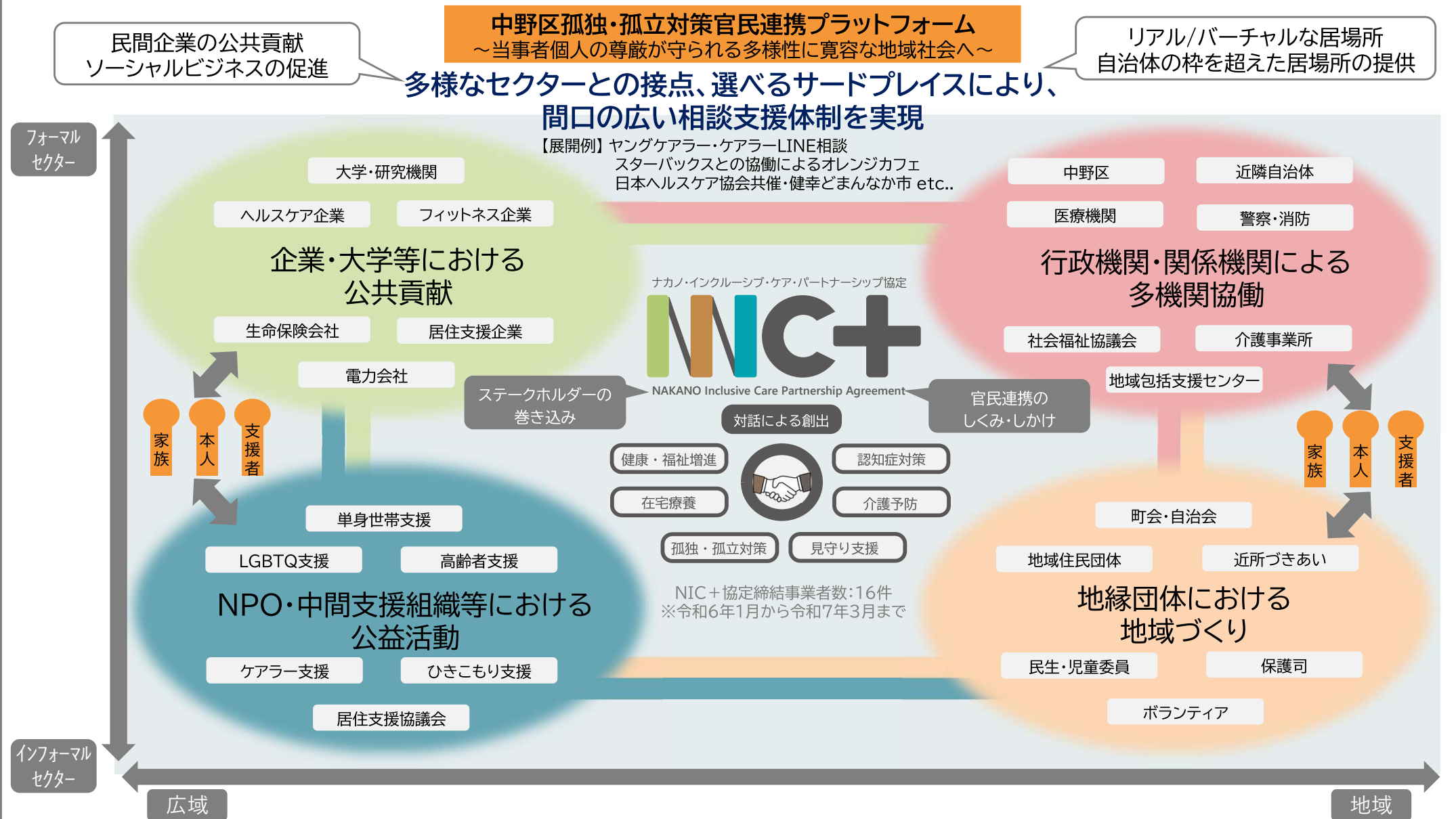


【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要

【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- PF参画団体の取り組みを区民に周知する
- 孤独・孤立に関する区民の意識醸成を図る

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 孤独・孤立フォーラムの開催	【業務内容】孤独・孤立フォーラムを開催した 【対象】メインターゲット：若者 / サブターゲット：支援団体 【形式】対面 【次第】 ・ 開会挨拶 ・ 基調講演 ・ パネルディスカッション ・ 閉会挨拶	・ 孤独・孤立対策PF設置の周知 ・ 孤独・孤立対策PFに参画する支援団体等の掘り起こし及び巻き込み ・ 孤独・孤立に関する区民の意識醸成 効果検証項目 ➢ フォーラム参加者数：151名 ➢ フォーラムへの満足度：非常に満足・満足91% ➢ 孤独・孤立の課題についての理解度：非常に深まった・深まった95% ➢ 連携PFへの参画意向：関心がある23件	✓ 11月－：準備 ✓ 2月：実施	株式会社 Omniheal (200万円)
2 動画制作	【業務内容】ヤングケアラー支援アニメーションを制作した 【タイトル】「きかせてほしい きみのこと」 【あらすじ】幼馴染のケンタの様子が気になるゆうま。ケンタの状況を聞き、ヤングケアラーを知る。 【時間】約4分	・ ヤングケアラーの認知度向上 ・ ヤングケアラー支援事業の周知 ・ 声を上げてほしい、助けを求めていると思える社会の意識醸成、個人の行動変容 効果検証項目 ➢ アニメーションは区の公式Youtubeで公開を予定しており、中野区に限らず、全国に向けてヤングケアラー支援の啓発につながるものである。 ➢ アニメ制作会社のSNSも活用し、ティザーを打つことで、注目度を高めた。（X表示数約5万）	✓ 10月－：準備・制作 ✓ 4月－：公開（予定）	株式会社 MAPPA (200万円)

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- ・ 第9期中野区地域包括ケア推進会議孤独・孤立対策部会における孤独・孤立官民連携PF、地域協議会の設置検討
- ・ ヤングケアラー支援アニメーションのプロモーションを兼ねた普及啓発の取り組み（パネル企画展の開催等）

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 関係機関より連携の必要性について声が上がった。
- ・ 高齢者だけではなく、若者に対する支援の必要性についても課題認識があった。

【C.試行的事業】_1.孤独・孤立フォーラムの開催

概要

- 名称：孤独・孤立フォーラム～孤独・孤立の接点～
- 日程：令和7年2月22日（土）10:00～16:30
- 開場：中野区役所1階イベントスペース「ナカノバ」

工夫点

- ポスター88枚・チラシ1421枚の配布、中野区やフォーラム登壇者などのHP・SNS等を通じた積極的な宣伝を行った。
- 孤独・孤立対策に取り組む民間企業によるロボットやVRデバイスの体験会を行い、参加者の孤独・孤立への理解を促した。

ねらい

- 孤独・孤立対策PF設置の周知
- 孤独・孤立対策PFに参画する支援団体等の掘り起こし及び巻き込み
- 孤独・孤立に関する区民の意識醸成

結果

- フォーラム参加者数：151名
 - 午前の部：28名
 - 午後の部：事前申し込み83名、当日申し込み30名

プログラム概要

- 常設展示：オリイ研究所による分身ロボット『OriHime』の体験会
支援活動団体8団体によるパネル展示
- 午前の部：大塚製薬によるVRデバイス『FACE DUO』の体験会
中野区で孤独・孤立支援を行う団体の交流の場
- 午後の部：開会のあいさつ（中野区長）
基調講演（株式会社オリイ研究所所長）
パネリストによる支援活動紹介とパネルディスカッション

◆ FACE DUOの体験会



◆ 午後の部の基調講演で壇上に立つ『OriHime』



◆ パネル展示



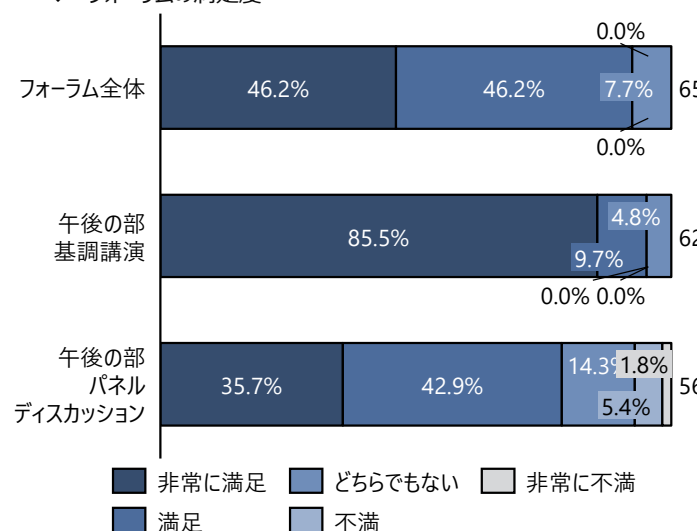
◆ 午後の部の会場の様子



アンケート結果

- アンケート回答数：66件
- 孤独・孤立の課題についての理解：非常に深まった27件（41%）、深まった36件（55%）
- 連携PFへの参画への関心：関心がある23件（任意回答）
- アンケート項目：フォーラム全体及びプログラムごとの満足度、フォーラムをきっかけに新たな連携・協力が生まれる可能性、フォーラムを通じて得た学び など

◆ フォーラムの満足度



◆ フォーラムを通じた学び・行動への影響（自由記述）

- 孤独・孤立の問題について理解が深まった
- 地域や団体との連携の重要性を感じた
- 自身の活動（地域のサードプレイスづくりなど）に活かしたい
- 高校・中等教育との連携の可能性を考えたい
- クラウドファンディングなどを活用して支援の幅を広げたい

【C.試行的事業】_2.動画作成

概要	- 名称：ヤングケアラー支援動画の制作 - 公開日：令和7年4月頃
工夫点	- アニメ制作を広報に取り入れることで、視覚的に魅力があり、感情に訴える効果的なコミュニケーションを可能とした。 - 見て終わりではなく、「見て考える」きっかけになるよう制作した

ねらい

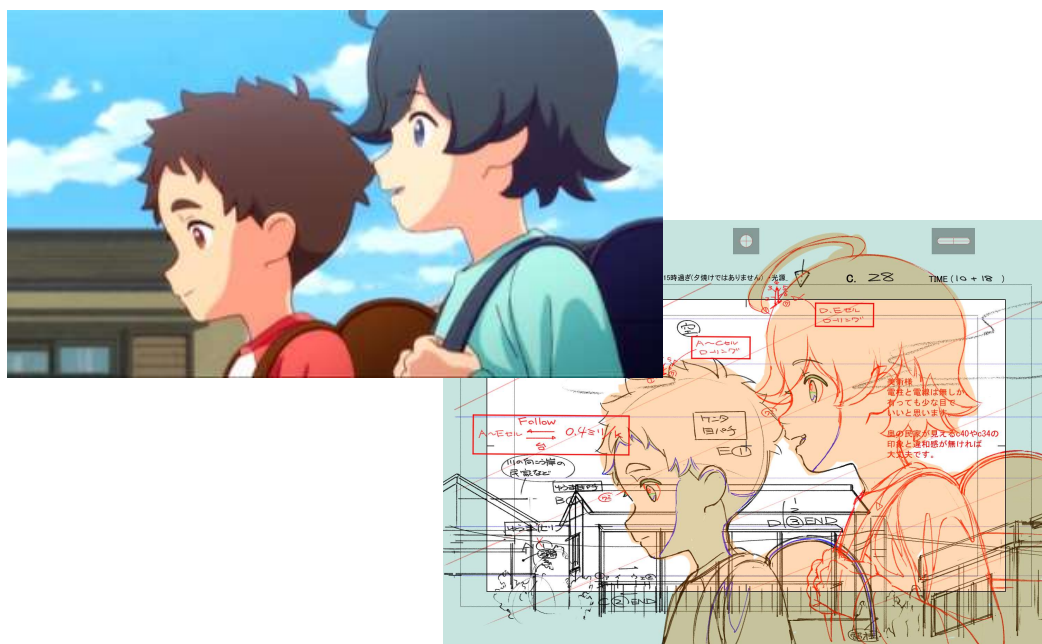
- ヤングケアラーの認知度向上
- ヤングケアラー支援事業の周知
- 声を上げてもいい、助けを求めてもいいと思える社会の意識醸成、個人の行動変容

結果

- アニメーションは区の公式Youtubeで公開を予定しており、中野区に限らず、全国に向けてヤングケアラー支援の啓発につながるものである
- アニメ制作会社のSNSも活用し、ティザーを打つことで、注目度を高めた(X表示数約5万)

アニメの概要

- ◆ タイトル
「きかせてほしい きみのこと」
- ◆ あらすじ
幼馴染のケンタの様子が気になるゆうま。ケンタの状況を聞き、ヤングケアラーを知る。



ヒアリングの実施

支援者が支援したい気持ちが純粹で、そういった人がたくさんいる。孤独・孤立を感じる人が一歩自分の力で踏み出してもらえるよう、また、踏み出すことを待っている人がいるということを伝えることができる内容とした。

◆ 中学生・高校生

対象：ハイティーン会議参加者の中学生、高校生
「各学校に相談室はあるが、実際にはかなり入りづらい雰囲気がある」「相談してもなにも変わらないと思う」「悩んでいる友人がいたら助けたい」という中高生のリアルな意見を聞くことができた。

◆ 支援関係者

対象：子どもの居場所支援者、ヤングケアラーコーディネーター
「現実には本人から相談があることはあまりないが、アニメーションを見て希望を見せたい。ポジティブな内容がよい」とアドバイスを受けた。

◆ ヤングケアラー当事者

対象：祖母の介護を経験した2名に話を聞いた。
「当時は自身がヤングケアラーということを知られたくない訳ではなく、相談するようなことと思わなかった」

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 官民連携のための仕組みを作り、官民双方からやりたいこと・できることを共有し合えるように、積極的に対話を行っている

